

構造改革特区提案再意見補足説明資料

平成20年8月

今 治 市
愛 媛 県

1 「獣医師の需給に関する検討会報告書」による獣医師の需給動向

- 平成19年5月に農林水産省がとりまとめた「獣医師の需給に関する検討会報告書」によると、四国地域は、全国9ブロックの中で獣医師が最も少なく、全国の獣医師のわずか2.4%しか四国で活動していない。

○獣医師の活動地域の選択割合

	産業動物診療獣医師	小動物診療獣医師
北海道	23.7%	4.5%
東北	15.2%	4.8%
関東	16.2%	43.9%
北陸	4.4%	4.1%
東海	5.4%	12.2%
近畿	5.6%	14.8%
中国	6.4%	4.6%
四国	2.4%	2.4%
九州	20.7%	8.6%

出所：平成18年獣医師法第22条の届出による

- また、将来の需給見通しでも四国地区は産業系獣医師の不足が顕著（2040年で必要獣医師の65.5%）で、小動物診療獣医師も全国9ブロックの中で最も供給が少ない（2040年で必要獣医師の83.9%）と予測されている。

○産業動物診療獣医師の地域別需給割合（政策努力目標を勘案した場合）

	2006年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
北海道	88.1%	83.9%	79.7%	75.3%	72.0%	69.7%	68.2%	67.6%
東北	124.3%	120.5%	116.0%	109.5%	104.8%	101.4%	99.2%	98.3%
関東	146.1%	140.2%	134.0%	126.5%	121.1%	117.2%	114.6%	113.6%
東海	77.1%	74.1%	70.8%	66.9%	64.0%	61.9%	60.6%	60.0%
北陸	105.6%	99.9%	94.5%	89.2%	85.3%	82.6%	80.8%	80.1%
近畿	141.9%	136.0%	129.9%	122.6%	117.3%	113.6%	111.1%	110.1%
中国	146.3%	141.7%	136.4%	128.8%	123.3%	119.3%	116.7%	115.6%
四国	84.2%	80.8%	77.3%	73.0%	69.8%	67.6%	66.1%	65.5%
九州	75.4%	73.7%	71.5%	67.5%	64.6%	62.5%	61.1%	60.6%

需給割合＝供給数／必要獣医師数×100

○小動物診療獣医師の地域別需給割合（小動物診療施設における効率化を勘案せず需要現状値の場合）

	2006年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
北海道	105.9%	109.9%	116.4%	124.1%	132.1%	134.7%	136.7%	137.6%
東北	84.7%	87.0%	91.2%	95.8%	99.5%	101.5%	103.0%	103.7%
関東	122.0%	122.1%	123.8%	127.0%	130.5%	133.1%	135.1%	136.0%
東海	100.2%	101.8%	104.0%	107.2%	110.6%	112.8%	114.4%	115.2%
北陸	82.6%	84.4%	87.7%	91.9%	96.0%	97.9%	99.3%	100.0%
近畿	89.7%	92.1%	95.3%	99.3%	103.7%	105.8%	107.3%	108.0%
中国	78.3%	80.6%	84.4%	89.0%	93.3%	95.2%	96.6%	97.2%
四国	67.4%	69.2%	72.4%	76.5%	80.5%	82.1%	83.3%	83.9%
九州	78.7%	80.1%	83.2%	86.9%	90.0%	91.8%	93.2%	93.8%

資料：「獣医師の需給に関する検討会報告書」（平成19年5月 農林水産省）

2 産業動物系獣医師の不足要因となる獣医師の性比の変化

産業動物系獣医師の不足の要因は、処遇の改善や職域偏在といった要因よりも、医師の場合と同様に獣医師の供給数が不足していることの表れであると解している。

特に産業系獣医師の不足は、処遇が低いことにより発生しているのではなく、近年の獣医系の大学への進学者に女性の割合が増えていることにより、体力的に大型家畜を扱うことが困難な女性獣医師が産業系以外の職域に就くことが要因と思われる。

35歳を境に獣医師の男女構成比の逆転現象が生じ始めており、20歳代では、女性比率の高まりが大きくなってきていることから、大型家畜を扱うため体力を要する産業系獣医師はさらに加速度的に不足することが予想される。

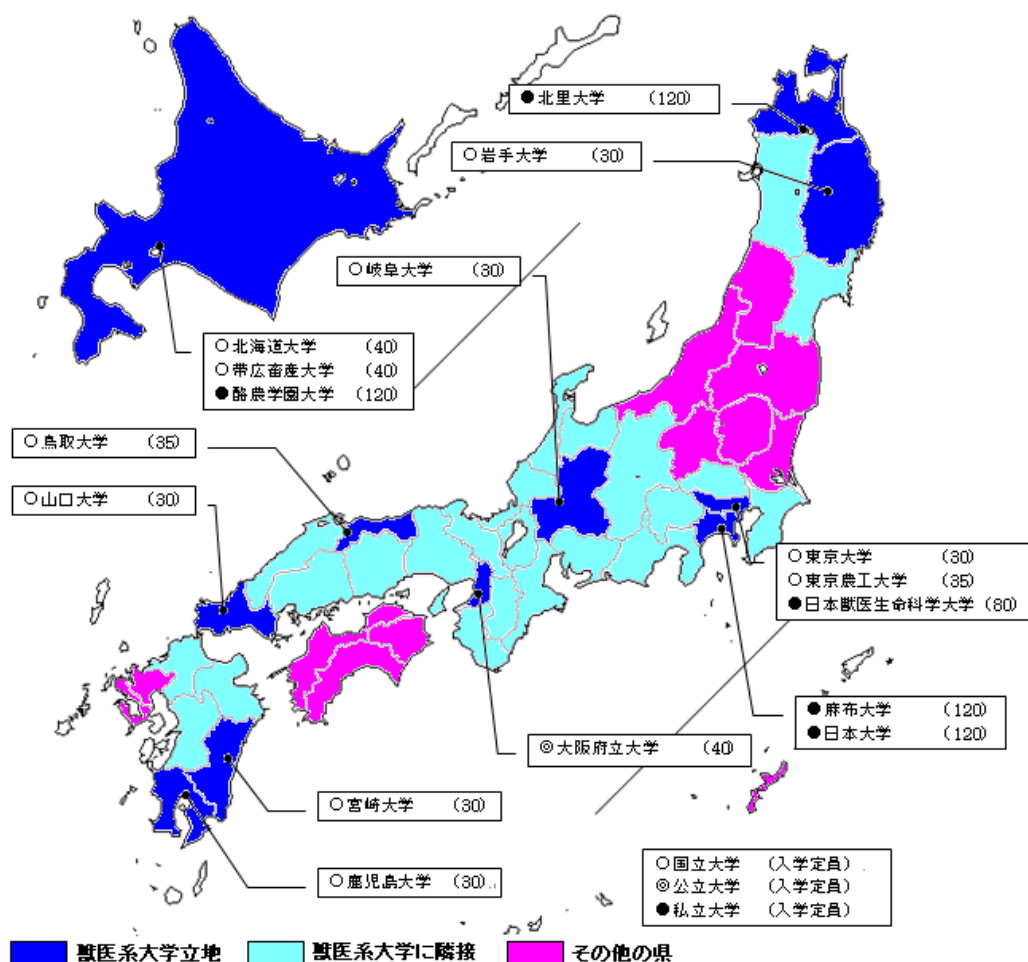
このため、産業系獣医師の不足の解消は、獣医系大学の入学定員を増やすことで、獣医師供給の底辺を拡大し、大型家畜を扱える男性獣医師の総数を増やさなければならない。

(参考) 男女別獣医師免許保有者数

年齢	免許保有者					従事者				
	計	男	率%	女	率%	計	男	率%	女	率%
24～29	4,179	2,003	47.9%	2176	52.1%	3,385	1,662	49.1%	1723	50.9%
30～34	5,332	2,512	47.1%	2820	52.9%	4,058	2,147	52.9%	1911	47.1%
35～39	4,991	3,126	62.6%	1865	37.4%	3,904	2,681	68.7%	1223	31.3%
40～44	4,770	3,382	70.9%	1388	29.1%	3,789	2,891	76.3%	898	23.7%
45～49	5,007	3,944	78.8%	1063	21.2%	4,071	3,394	83.4%	677	16.6%
50～54	4,991	4,051	81.2%	940	18.8%	3,991	3,468	86.9%	523	13.1%
55～59	4,687	4,146	88.5%	541	11.5%	3,706	3,414	92.1%	292	7.9%
60～64	2,854	2,715	95.1%	139	4.9%	1,746	1,694	97.0%	52	3.0%
65～69	2,463	2,407	97.7%	56	2.3%	1,088	1,070	98.3%	18	1.7%
70～74	2,055	2,039	99.2%	16	0.8%	670	665	99.3%	5	0.7%
75～79	2,847	2,840	99.8%	7	0.2%	644	643	99.8%	1	0.2%
80～84	2,730	2,729	100.0%	1	0.0%	375	375	100.0%	0	0.0%
85 以上	1,482	1,482	100.0%	0	0.0%	90	90	100.0%	0	0.0%

3 獣医師養成系大学の立地の偏在と教育の機会の地理的な差

(参考) 獣医師養成系大学の立地の偏在



○ 獣医系大学が設置されている 11 都道府県

北海道(3)、青森県、岩手県、東京都(3)、神奈川県(2)、岐阜県、大阪府、鳥取県、山口県、宮崎県、鹿児島県

○ 獣医系大学が設置されている都道府県に隣接する 23 府県

秋田県、宮城県、千葉県、埼玉県、山梨県、長野県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、滋賀県、三重県、和歌山県、奈良県、京都府、兵庫県、岡山県、広島県、島根県、福岡県、大分県、熊本県

○ 獣医系大学が設置されている都道府県に隣接しない 13 県

山形県、新潟県、福島県、栃木県、茨城県、群馬県
 愛媛県、香川県、徳島県、高知県
 佐賀県、長崎県、沖縄県

四国の空白ブロックの周囲に立地する獣医系大学は、国公立のみの定員 165 名に対し、北関東北陸の空白ブロックの周囲には、私立を含む定員 565 名の獣医系大学が立地し、「四国地方がその他の地域と比して均衡を失っているという状況ではない」とはいえない状況にある。